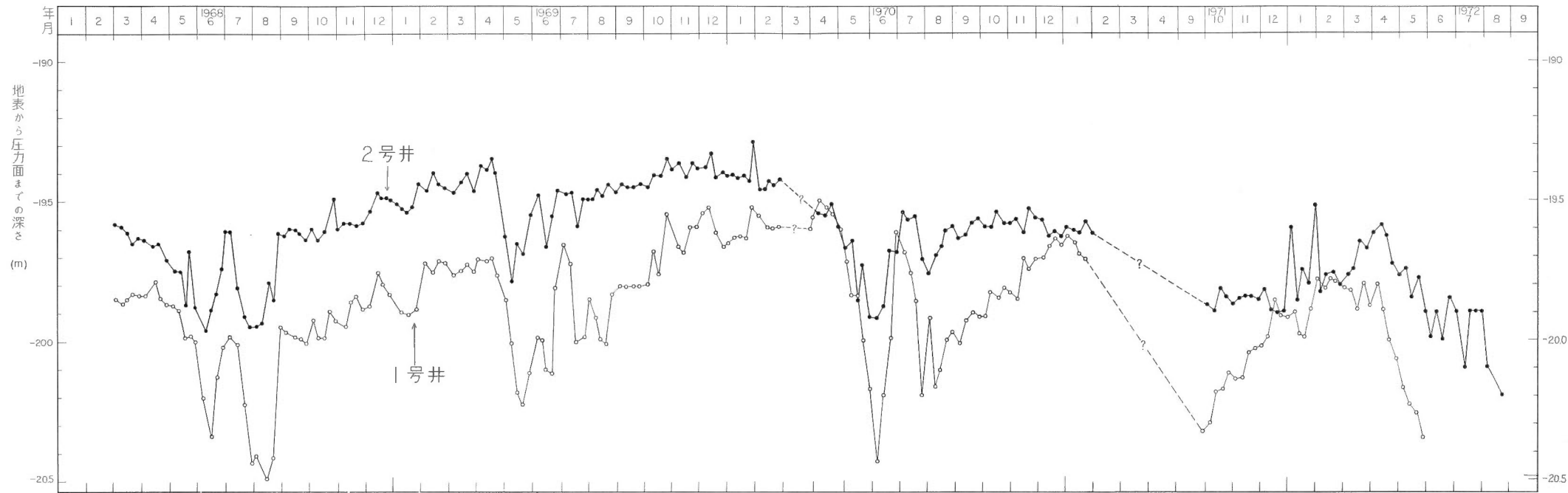
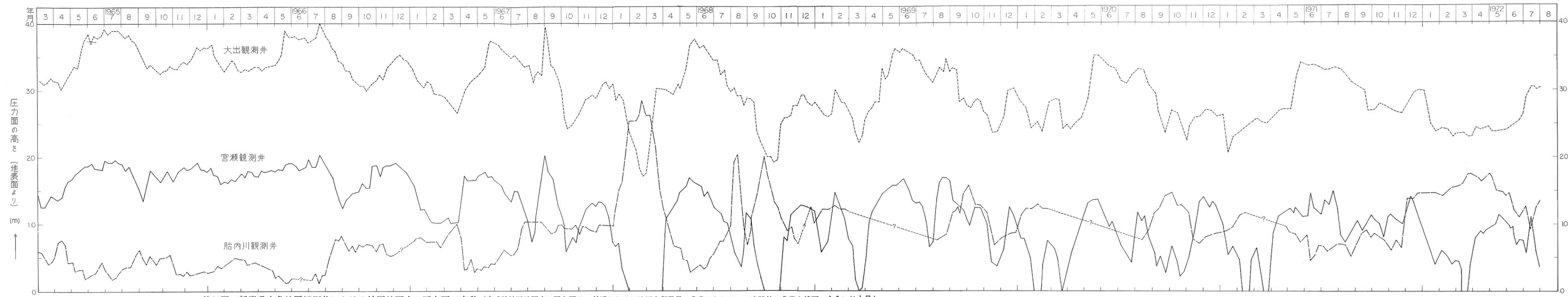


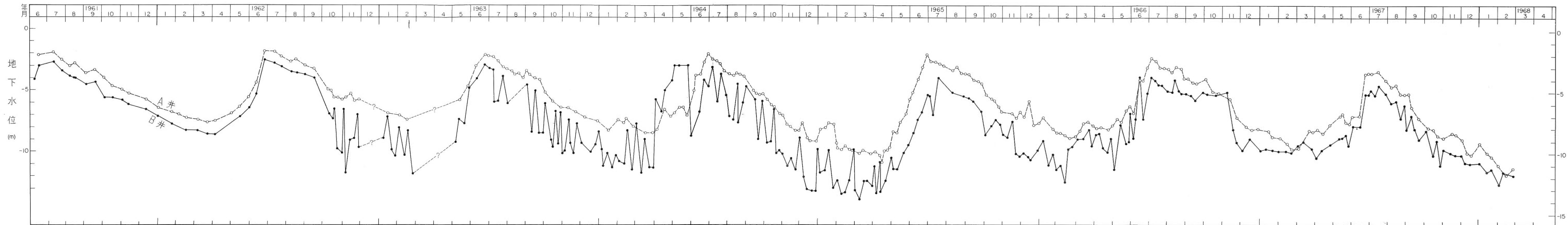
第11図 大船渡観測井(深度42.5m)における地下水位の経年変動(1964年8月の台風14号の際には地下水位は0.8m近く急激に上昇している)



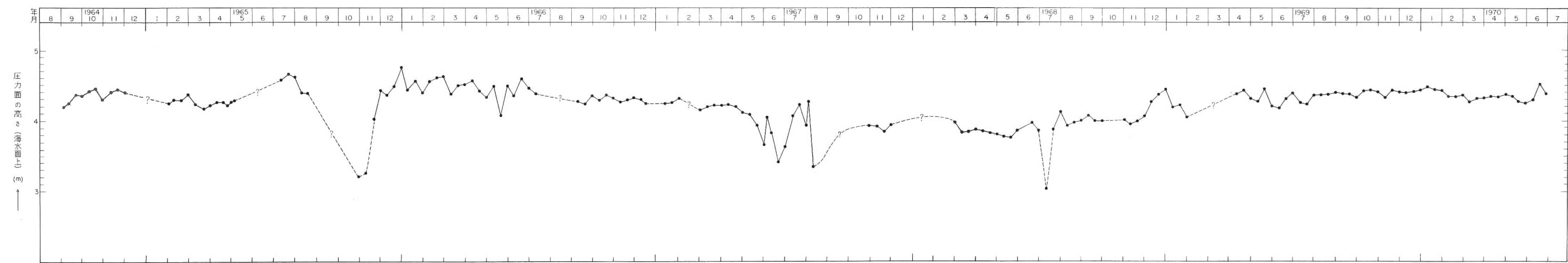
第16図 市津観測1号井（深度90m）と観測2号井（深度40m）における地下水位の経年変動（地下水位変化曲線が示す傾向から90mおよび40mの両帯水層中の地下水利用が行なわれている関係が察知される）



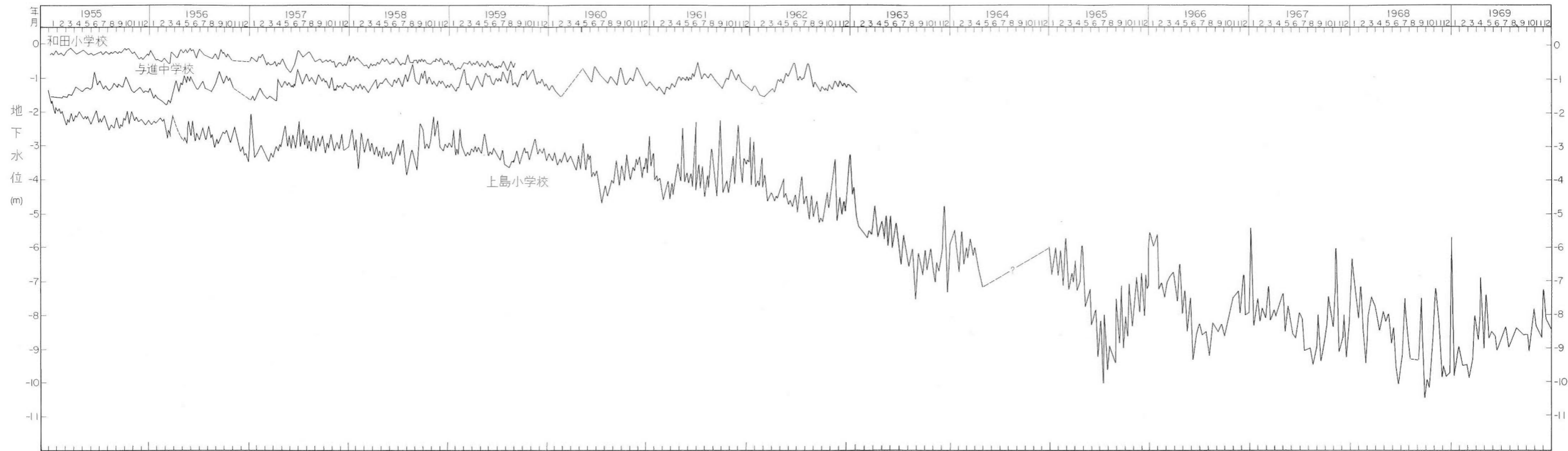
第24図 新潟県中条地区観測井における被圧地下水の圧力面の変動（自噴性被圧地下水の圧力面は、付近における地下水利用量の多寡にしたがって時期的に急激な低下、あるいは上昇、しかも経年的に不規則な変動を示している）



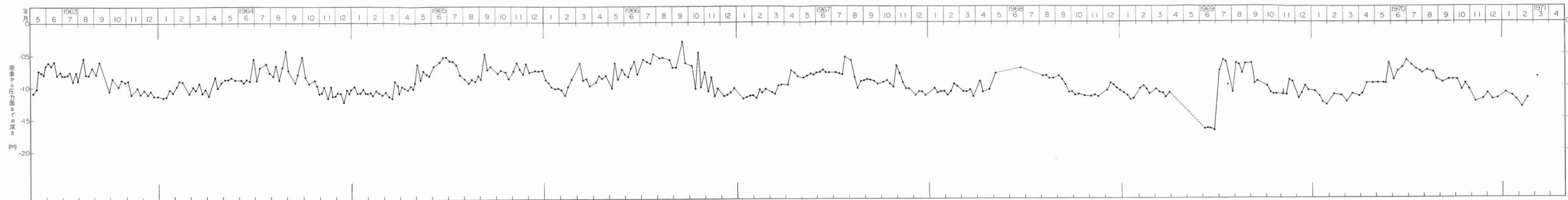
第30図 平垣地区観測井A井（深度102m）とB井（深度40m）における被圧地下水の圧力面の経年変動（B井では一部揚水水位を示す）（被圧地下水の圧力面は、10月頃から翌年の3月末までに周期的に低下を示し、低下の割合が年を追って増大している）



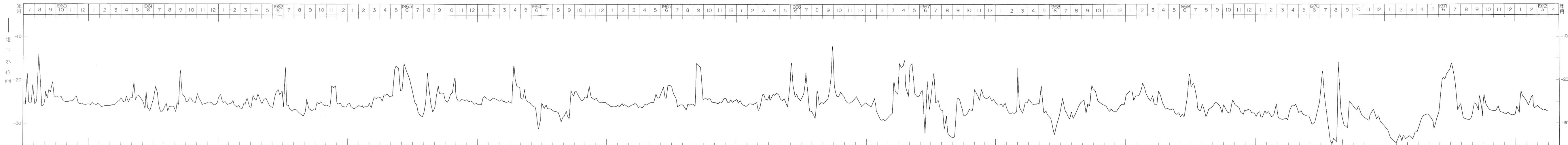
第31図 柏原新田観測井（自噴井）における圧力面の経年変動（近接井で地下水の汲みあげが行なわれると圧力面は急激に低下する。地下水の汲みあげをしていない時期の圧力面はその変動が少ない）



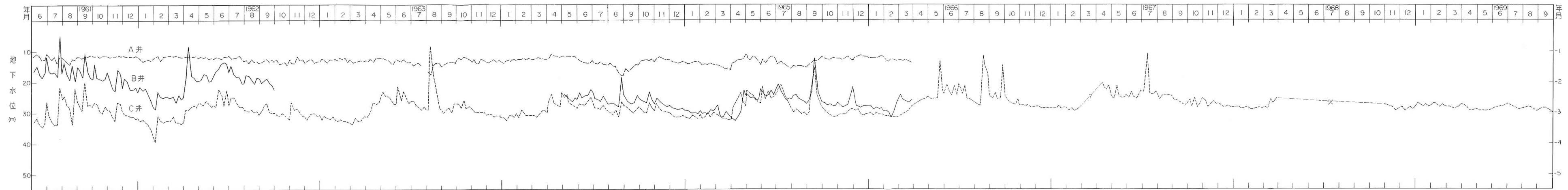
第33図 浜松地区観測井における地下水位の経年変動 (地下水汲みあげによる影響は和田小学校および与進中学校の観測井には生じていない。これに較べ上島観測井ではその影響を受け、地下水位は1962年以降急速に低下している)



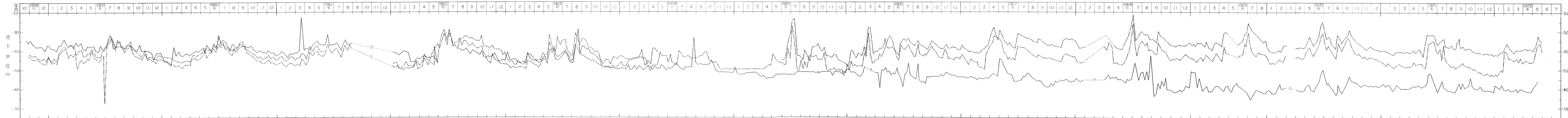
第37図 明和町観測井における被圧地下水の圧力面の経年変動 (1964年8月20日から24日までの豪雨のため地下水位は0.45m以上上昇している)



第45図 観音寺観測井における地下水位の経年変動(地下水位は降雨に対応して変化している。1962年7月上旬に認められる地下水位の急激な上昇は7月1日から9日までの梅雨前線による大雨のためである。また1963年5月中旬および6月上旬に認められる地下水位上昇は瀬戸内地方で平年に較べて、2.5~3倍を示した長雨のためと、6月2日~5日にわたった台風2号による前線豪雨によるためである。さらに1964年4月7日~10日の大雨が0.9mにおよぶ地下水位の上昇をあたえている)



第50図 高知地区観測井における地下水位の経年変動



第51図 八代地区観測井における地下水位の経年変動